話題の講義ライブ
LIVE 2013

Today's Program コミュニケーション・ワークショップ演習

RYUKOKU UNIVERSITY
龍谷大学

政策学部 政策学科

5.24.Fri. at Fukakusa
13:15~14:45
村田 和代 教授

対話を通して意見の多様性を知り 互いが納得できる〝話し合いの能力〟を育てる

講義の流れ コミュニケーションをめぐるさまざまなテーマの話し合いの実施・観察・振り返りといった一連の活動を通して、よい話し合いとは何かについて考える。少人数制のワークショップ形式。

醍醐味 他者と協力して課題の達成ができるコミュニケーション能力が培われる。

〝よい話し合い〟を実現するための話し合いに大切なことについて考える

「今日はこれまでの基礎編のまとめと、応用編となる後半のイントロダクションを共有するために全クラスに集まってもらいました」と、村田先生による主旨説明から講義が始まった。「コミュニケーション・ワークショップ演習」は、いつもは約25名の少人数クラスで活動しているが、講義の折り返し地点にあたる今日は全12クラス合同の全体講義となった。学生はもとより、各クラスを担当する先生、さらに講義運営をサポートする教育補助員の先輩らが一堂に会したのは、初回講義以来、約2カ月ぶりだ。

その間、各クラスでは、コミュニケーションをめぐる基本的なトピックについて、話し合いの実施・観察を行い、よい話し合いとはどういうものかについて考えてきた。話し合いなら今まで何度もやってきたし、大学でわざわざ学ばなくても……と思う人もいるだろう。しかし、村田先生は「話し合いには適切なマナーやルールがあるが、普段は気に留めていないものです。それらは可視化して意識しないと学べない」と指摘する。

実施・観察・振り返りを経て合意形成のプロセスを体感する

演習で取り上げるトピックには、「人の話を聞くうえで大切なこと」「人に伝えるうえで大切なこと」「よい話し合いとはどんな話し合いか」など、話し合いの前提となる条件設定を問うものが中心。これらについて考えるにあたり、まずクラスを四つのグループに分け、半分を「話し合いグループ」、残り半分を「観察グループ」とし、互いに異なる立場から話し合いに関われるようにしている。

「テーマについて話し合うグループの様子を見て、観察グループは客観的に分析し、気づいたことを『学習ポートフォリオ』に記録します。話し合いの後、両グループが合流して話し合いの内容を振り返り、結果を整理していきます。この『実施』『観察』『振り返り』の三段階を踏むことで、話し合いにおいて最も重要な、合意形成のプロセスを体感できるのです」

もっとも、演習が始まった当初は、緊張や遠慮から話し合いがうまく進まなかったという。村田先生はそれも承知の上で、あえて困難な状況に直面させる。「その代わり、次の話し合いの場では司会進行役を決め、自己紹介をするように指示します。すると、学生たちは『前回より円滑にできた』と実感し、やがて『話し合いには役割分担や話し合いの場作りも大切なのでは』という発見を得ます。実体験を通じて学生が自分たちで答えを見つけ出せるように、教育補助員の学生ともども、直接的な指導は必要最低限にし、学生たちが自ら気づいて学べるようにしています」と村田先生。

社会のあらゆる場面で機能する「話し合い能力」を持つ逸材に

きたる応用編の演習では、基礎編で得た「話し合いの方法論の実践」が大きなテーマとなる。応用編の課題は、「あなたにとって働くことは?」というテーマでグループごとに約2分間のムービーを作成・発表する、というもの。作品完成に向けて最も大切なことは、グループメンバーのチームワークである。この課題には「話し合い能力」の向上に加え、働く意義を追求した学生が自分自身の将来像を形作りやすくなるという利点もある。

社会に出れば、大学以上に立場や考え方の違う人と出会う。そして、一緒に物事を進めなければならない場面にも直面するだろう。そんな時こそ、この講義で培った力の見せどころだ。「相手を論破するのではなく、お互いを尊重しながら合意形成を行える話し合いのエキスパートは、これからの参加・協働型社会にとって不可欠な存在。政策学部が教育目標に掲げる、地域で活躍し、地域社会を変える『地域公共人材』に必要不可欠な素養です」と村田先生。スタート2年目にして龍谷大学教育改革支援制度に採択され、政策学部の教員が協働で開発したプログラムである。学内外の注目を集める講義であるだけに、今後の学生たちの成長が楽しみだ。

VOICES 学生の声 of University Students

林 沙有利さん（中央右）
政策学部 政策学科2年
一つのテーマをグループの皆で突き詰めていくなかで、コミュニケーションの難しさや大切さを改めて感じます。個別の勉強とは違った喜びや達成感が得られるのも、この講義の魅力です。

太田 祐介さん（左）
法学部 法律学科3年(教育補助員)
「話し合い」というと他者と意見を戦わせる討論になりがちなので、協調性を重視するこの講義はとても新鮮でした。先生と学生のサポート役として、常に頼れる存在でありたいです。

谷 友太さん（中央左）
政策学部 政策学科2年
普段、何気なくしている「話し合い」がこんなに奥深いものだとは、この講義を受けるまで気づきませんでした。毎回新たな発見があり、刺激を受けます。

大西 朋子さん（右）
政策学部 政策学科3年(教育補助員)
昨年の講義で、仲間に自分の思いをうまく伝えられず、少し悔しい思いをしました。教育補助員である今は、細やかな目配りと声かけを心がけています。納得のいく話し合いをしてもらいたいです。

村田 和代（むらた かずよ）先生
龍谷大学政策学部教授。奈良女子大学大学院人間文化研究科博士課程単位取得。ニュージーランド国立ヴィクトリア大学大学院言語学科Ph.D.（言語学博士）取得。専門は社会言語学。異文化間コミュニケーション、職場談話、話し合い談話、特にポライトネス（言語の対人関係機能面）を中心に研究を行っている。

龍谷大学

資料の請求および お問い合せ先
URL http://www.ryukoku.ac.jp/admission/
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67 入試部
TEL 075-645-7887 FAX 075-645-4155

文学部
経済学部
経営学部
法学部
政策学部
理工学部
社会学部
国際文化学部
短期大学部

［ 沿革・歴史 ］

1639年	京都西本願寺境内に学寮が竣工され龍谷大学の歴史が始まる
1655年	幕府の命令により学寮を破却、以後「学林」と称す
1876年	学林を大教校と改称する
1879年	大教校落成。 ※現在の大宮キャンパス（京都市）本館など
1922年	旧制大学令による認可を受け、龍谷大学と改称。
1949年	新制大学令による龍谷大学となり、文学部（4年制）を開設
1950年	短期大学部開設
1960年	深草キャンパス（京都市）開設
1961年	経済学部を開設
1966年	経営学部を開設
1968年	法学部を開設
1989年	瀬田キャンパス（大津市）開設。理工学部、社会学部開設
1996年	国際文化学部開設
2009年	創立370周年
2011年	政策学部開設。龍谷ミュージアム開館
2012年	文学部臨床心理学科開設

［ オープンキャンパス情報 ］

瀬田キャンパス
7月21日(日) 10:00～16:00（予定）
8月24日(土) 10:00～16:00（予定）

深草キャンパス
8月3日(土)・4日(日) 10:00～16:00（予定）
9月29日(日) 10:00～16:00（予定）

詳細は、龍谷大学入試情報サイト（http://ryukoku.ac.jp/admission/）でご確認ください。

資料請求は簡単！ 本紙に掲載した大学（私立大学のみ）の案内資料は、P36のハガキ、または東進のウェブサイトwww.toshin.comから請求できます。